

ヘアカラー あれこれ

ヘアカラー剤と皮膚かぶれ

ヘアカラー剤の中で最も多く使用されるのは酸化染毛剤（医薬部外品）です。
通常は使い易く安全ですが、ときにアレルギー性のかぶれを起こすことがあります。
使用前に必ずカラー剤の種類を確認し、分からない場合は理美容師にご相談ください。

使用するカラー剤の種類をチェック！

ヘアカラーリング剤の種類

①染毛剤（医薬部外品）

②染毛料（化粧品）

①永久染毛剤

②脱色剤・脱染剤

①酸化染毛剤

②非酸化染毛剤

①半永久染毛剤

②一時染毛料

ヘアカラー
ヘアダイ
白髪染め

オハグロ式毛染め

ヘアブリーチ
ヘアライトナー

ヘアマニキュア
酸性カラー
カラートリートメント

ヘアマスカラ
ヘアカラースプレー

*酸化染毛剤と酸性カラーは全く違う種類のカラー剤です。混同しないように注意してください

ヘアカラー Q&A

Q.ジアミン系染料はかぶれやすいって本当？ A.酸化染毛剤は最も広く使用されていますが、ヘアカラーによるアレルギー性接触皮膚炎の原因物質(アレルゲン)の多くは、酸化染毛剤に含まれる*ジアミン系染料(裏面記載)とよばれる成分です。

Q.かぶれにくいカラー剤があるって本当？ A.カラートリートメント、ヘアマニキュア、ヘナなどは酸化染毛剤よりも格段にかぶれにくいといえます。ただし、補助的に酸化染料を使用している製品もあるので注意が必要です。

Q.植物性のものなら安全？ A.植物由来でもかぶれを起こすものもあります。大切なのは○○由来というフレーズではなく、その成分が原因物質(アレルゲン)になりにくく、かつ低刺激であるかです。

Q.パッチテストってなあに？ A.アレルギー症状の有無を調べる皮膚テストです。しかしユーザーのテスト実施率はとても低いのが現状です。これはテストに48時間の観察が必要なこと、メーカーやサロンの注意喚起不足、安易な自宅でのカラーリングなどが原因と言われています。酸化染毛剤についてメーカーは毎回のテストが必要としています。

ヘアカラー剤の毛髪染毛イメージ

酸化染毛剤 (酸化染料)

カラートリートメント (HC・塩基性染料)

酸化染料

HC染料

塩基性染料

低分子なため
内部まで浸透

メラニン色素

酸化重合し発色した
酸化染料

分解・脱色した
メラニン色素

毛髪表面と結合した
塩基性染料

酸化重合し発色した酸化染料は高分子なため内部から出にくく、定着性が高い。染毛と脱色が同時におこる

塩基性染料が毛髪表面とイオン結合し、HC染料は内部に浸透する。酸化染料より定着性は弱く、脱色はおこらない

ご使用前に！

パッケージ記載の成分表を必ずチェックしてください

分からない場合は理美容師、または薬剤師にご相談ください

チェック①

医薬部外品の表示があるか

カラー RP73 1液

40 ml **医薬部外品**

成分:パラアミノフェノール*,メタアミノフェノール*,トルエン-2,5-ジ
アミン*,レゾルシン*,塩酸2,4-ジアミノフェノキシエタノール*,5-
アミノイソクレゾール*,水、ラウレス硫酸Na、POEアルキル(12~
14)エーテル、MEA、アルキルグリコシド、エタノール、強アンモニア
水、塩化ジメチルジアリルアンモニウム、アクリル酸共重合体液、PG、
PPG、ヤシ油、脂肪酸アシルグルタミン酸Na、塩化ジメチルアンモニウム、香料、
塩化Na、無水亜硫酸
ナトリウム、エデト
ナトリウム液、ローヤル
ゼリー抽出液
*は「有効成分」無

チェック②

*酸化染料(ジアミン系染料)があるか
*裏面記載

カラー剤の成分に酸化染料(ジアミン系染料)が配合されている場合は
裏面記載の注意事項をお読みください

カラーリングはヘアサロンで。

編集：埼玉県理容組合青年部



酸化染毛剤を安全に使用するための基礎知識

①【酸化染毛剤】(医薬部外品)

酸化染毛剤はヘアカラーリング剤の中で最も広く使用されていますが、アレルギー性接触皮膚炎を引き起こしやすい事でも知られています。

酸化染料の役割を果たし、アレルギー性接触皮膚炎を引き起こしやすい代表的な物質(ジアミン系染料ともよばれる)としては、

・パラフェニレンジアミン ・メタアミノフェノール ・パラアミノフェノール・トルエン-2, 5-ジアミン等 があります。

お使いのカラー剤にこれらの物質が配合されているか必ずチェックし、アレルギーがある方は絶対に使用しないでください。

②【アレルギー性接触皮膚炎】と、非アレルギーの【刺激性接触皮膚炎】の違い

・《刺激性接触皮膚炎》

原因物質自体が持つ刺激や毒性によってかぶれるため、アレルギーに関係なく誰にでも起こりえますが、体調によっては起こったり起こらなかったりします。酸化染毛剤(すべて2剤式)においては、1剤の成分のほか、2剤に使われる **過酸化水素水** などの刺激性物質が原因となることがあります。

・《アレルギー性接触皮膚炎》

原因物質(アレルゲン物質)に繰り返し触れることで湿疹が現れます。ヘアカラーにおいては特に **ジアミン系の酸化染料** がアレルゲンになることが多いです。一旦症状が治まっても、再度使用すれば発症し、次第に症状が重くなり、全身症状を呈することもあります。

・《アナフィラキシー》

原因物質(アレルゲン物質)との接触から短時間のうちに、**じんましん、息切れ、動悸、血圧低下、めまい**等の症状が**複数**現れます。一旦症状が治まっても、再度使用すれば発症し、アナフィラキシーショックを起こすこともあります。

③【セルフテスト*パッチテスト】の方法

・1剤と2剤を指定の割合で作ったテスト液を二の腕の内側に塗り、**30分後**及び**48時間後**の観察をします。

(アレルギー性接触皮膚炎は翌日以降に反応が現れる可能性が高いため、48時間後の観察も必要。陽性の場合、かゆみ、湿疹などが現れます。)

・絆創膏等で覆わないでください。

(感作を促したり過度のアレルギー反応を引き起こしたりするおそれがあるため)

・テスト結果が陰性の場合にはなるべくすぐに染毛してください。陽性の場合にはすぐにテストを中止し、カラーリングは絶対に行なわないでください。